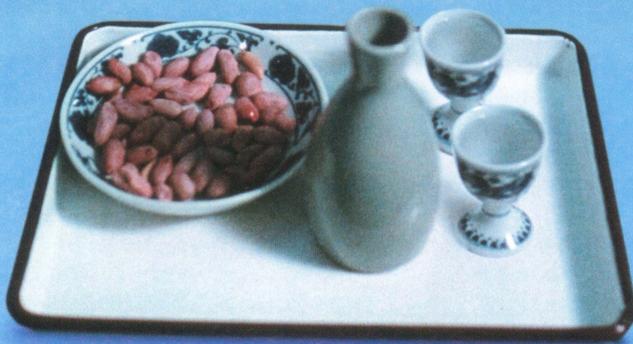
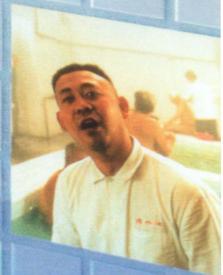
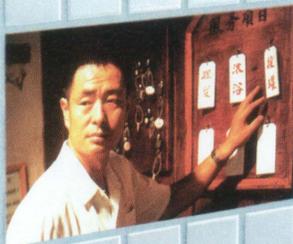


心の芯まであったまる……。



NHKドラマ「大地の子」の朱旭(チュウ・シュイ)主演作品

# SHOWER

## こころの湯

1999年トロント国際映画祭国際批評家連盟賞受賞  
1999年テサロニキ映画祭グランプリ(Golden Alexander)&観客賞受賞  
1999年サンセバスチャン国際映画祭監督賞&OCIC賞受賞  
2000年ロッテルダム国際映画祭観客賞受賞



Cast:Zhu Xu, Pu Cunxin, Jiang Wu Director:Zhang Yang Producer:Peter Loehr  
Executive Producer:Sam Duann Screenplay:Zhang Yang, Liu Fengdou, Huo Xin, Diao Yanan,  
Cai Shangjun Cinematographer:Zhang Jian, Bi Er Sound:Lai Qizhen Music:Ye Xiaogang  
Art Director:Tian Meng Editor:Yang Hongyu IMAR FILM CO., LTD. XIAN FILM STUDIO FORTESSEMO  
瀨存昕(ブーツンシン)/姜武(ジャン・ウー)/監督・脚本:張揚(チャン・ヤン)|スハイシー・ラフスーフ|製作:ピーター・ローアー  
中国映画/1999年/92分/1:1.66/カラー/ドルビーSR/配給:東京テアトル、ポニーキャニオン

## やすらぎの湯。

お風呂の思ひ出って、なんですか。やっぱり家族で入ったお風呂ではないですか。春は菖蒲、冬はゆず、お風呂の香りと共にお父さんの広い背中も思ひ出す……。

お父さんを演じて名高い俳優は数多いが、NHKドラマ「大地の子」の日本人孤児の養父役といえば、“あのお父さんにはポロポロに泣かされた”という人も、きっと多いはず。そんな“中国のお父さん”チュウ・シュイの主演最新作が本作『こころの湯』。チュウ・シュイは、中国では国宝とまで言われる名優。『心の香り』や『變臉くへんめん』この權に手をそえて』は、世界各地の映画祭で絶賛されている。

前作から5年、再び我らが“お父さん”が帰ってきた。今回も普段は温和だが1本筋の通った父親像を味わい深く演じ、またしても涙を誘われる。

監督は、『スパイシー・ラブスープ』を大ヒットさせたチャン・ヤン。今、中国映画界で最も注目されている若手監督だ。

## 泣かせの湯。

ストレスにさらされた現代社会。楽しく笑って気分転換もいけれど、なぜか思ひきり泣くと、すっきりするもの。涙はこのころのシャワーなのでしょうか。気持ちの曇りをすっきり洗い流してくれるのです。本作は、英語タイトル『SHOWER』の通り、まさにそんなこころのシャワーとなる物語です。

父が下町で営む銭湯「清水池」を継がず、都会で働くターミンは、弟のアミンから1枚の葉書を受け取る。知的障害のあるアミンは、文章の代わりに父が横たわる絵を描いてきた。それを見たターミンは、もしや父が倒れたのではと心配し、久しぶりに帰郷する。

幸い父に変わりはないが、アミンが迷子になったり、父が風邪で倒れたり“事件”が続き、ターミンは滞在を延ばして銭湯を手伝う。毎日やって来るお客さんの幸せそうな顔を見ているうちに、ターミンは初めてこの仕事をお客さんの気持ちを理解するのだった。ところがそんな矢先、地域の再開発のため銭湯の取り壊しが決まってしまう……。



これはインチキ中国語です。  
ギャグだから許してね。

## くつろぎの湯。

疲れた時は、ゆっくり入浴が一番。こればかりは自宅の風呂ではなく、温泉にでも出かけた。とはいえ、手近で温泉気分を味わいたいと言う時は、何と言っても銭湯が一番。大きな湯船に高い天井からボタリと落ちるしずく。頭のおつぺんから足の先まで、緊張感やストレスがお湯の中に溶けていく。この雰囲気はたまらない。

「隣近所が親戚以上に親しくて、本当に共同体であるような都会の下町の、人々の暮らしの喜怒哀楽が湯けむりとともに匂いたつような映画である。お風呂屋が町のセンターのようにになっている。そのつきあいのくつろぎぶりという、人情のこまやかさという、親しみやすさという、まるでかつての全盛時代の日本映画の庶民ものの知られざる傑作がどこから発見されたみたいな印象で、見ていてじつにもう懐かしい気持ちでいっぱいになった。」

——佐藤忠男(映画評論家)

## 癒しの湯。

癒しという作用を風呂に求めるのは、どうやらアジア特有の文化らしい。しかし、同じアジアでも、中国と日本の風呂文化にも違いはある。

広大な中国では雨が少なく水が貴重な地方がある。そんな土地の美しいエピソードが本作の中で、お父さんの口から語られる。内陸の陝北地方には年に一度しか雨が降らない。そのためこの地方の人々は、普段は風呂に入らない。しかし、昔ながらの風習で、花嫁は婚礼の前の日に風呂で体を清めなければならない。花嫁の父は穀物と引き換えに、村中の人々から少しずつ貴重な水を集めるのだという。娘は親の愛情という湯につかりながら、子供時代に涙で別れを告げる。

水は自然からの素晴らしい贈物であり、私たちが作れるものではない。そんな普段忘れがちな大切なことをこの映画は教えてくれるのだ。

AUDIENCE AWARD		
title	resp.	ward
1 Shower	474	4.52
2 Solar	712	4.47
3 Fucking Amal	850	4.42
4 Beautiful People	762	4.41
5 Touto sobre mi madre	913	4.37
6 Being John Malkovich	1295	4.31
7 Rent A Friend	275	4.37
8 Ghost Dog: The Way		

### ★数々の名作を抑え、観客に一番愛された映画!

2000年のロッテルダム国際映画祭で『こころの湯』が、『オール・アバウト・マイ・マザー』や『マルコヴィッチの穴』などの大ヒット作を抑えて観客賞を受賞した。



**こころの湯** 洗澡

SHOWER  
監督:張揚(チャン・ヤン)  
「スパイシー・ラブスープ」  
出演:朱旭(チュウ・シュイ)  
濮存昕(プー・ツンシン)  
姜武(ジャン・ウー)  
中国映画/1999年/92分  
1:1.66/カラー/ドルビーSR  
配給:東京テアトル/ポニーキャニオン

# 絶賛上映中!

日比谷・東宝映画街/入替制

シヤンテシネ 03 (3591) 1511

連日 10:40 12:50 3:00 5:10 7:20

当日料金(税込)

一般 1800円

大学生 1500円

シニア 1000円

水曜日レディースデイ  
女性の方1000円